

AREA | 葉山

潮風を感じる浜辺に立つシーサイドハウス

敷地から一歩踏み出せば足元には砂浜。さらに数十歩先には海という敷地に立つ「Villa Y/h」。

時には“海に浮かぶ富士山”を望むことも。建築家の岡田哲史さんが手掛けた端正な建築が、この恵まれた立地の魅力をいっそう高めています。

撮影／川辺明伸 撮影協力／UTUWA

FEELING
SEA WIND
DIRECTLY

エントランスを抜けたところから見た日没のシーン。端正な建築とラグジュアリーなインテリアと共に見る景色は、住み手のYさんだけのもの。

2階のリビングとひと続きになるテラスに立った位置から見た雄大な富士山の眺め。建物の1、2階を斜めに振ることで富士山と正対している。浜辺で遊ぶ人の声や波の音と共に、変化していく景色を眺める時間は、2度と繰り返されることなく、忘れられない経験として記憶に残る。

刻一刻と変わっていく富士山の表情を眺められる最高の贅沢

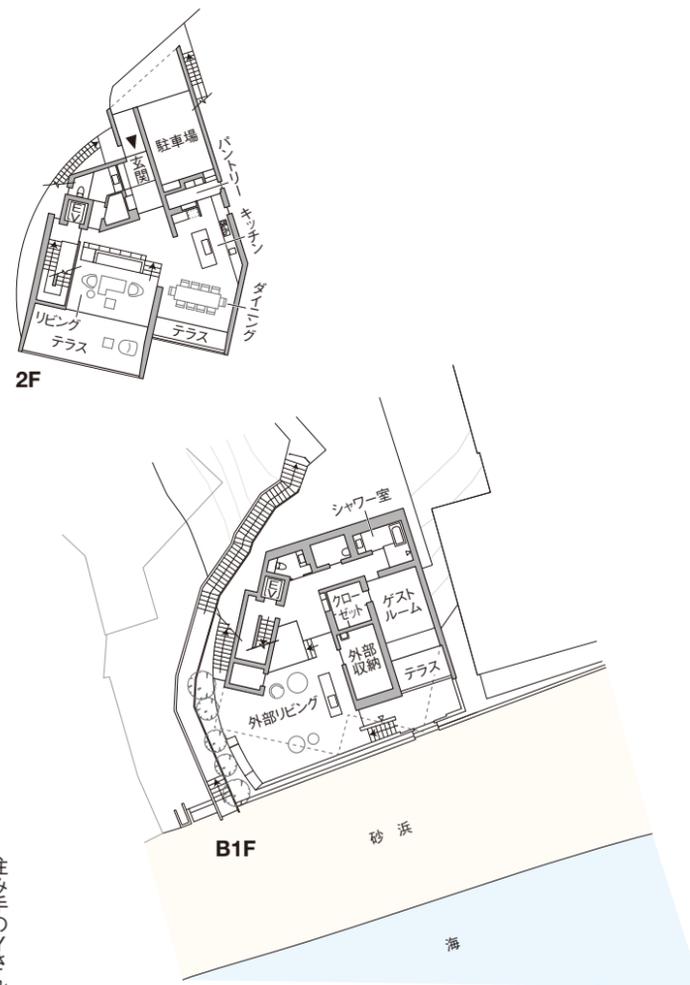
ひと続きの空間でありながら異なる景色を楽しめるLDK+テラス

リビングの天井を高くしたり、トップライトや抽壁を設けることにより、単に景色に向かって開くだけでなく、豊かな空間を実現している。

テラスに置いたチェアはデドンのもの。軽いので移動しやすい。お気に入りの角度に配置を調整して、自分だけの時間を過ごすことができる。



潮風をダイレクトに感じながらチェアに身を預け読書とコーヒーを楽しむ



2F

1F

B1F

住み手のYさんは都内のマンション暮らし。すでに軽井沢に別荘を所有しており、3つめとなる拠点を求め手に入れたのが、目の前にパノラマの海が広がる敷地だった。このような立地の場合、海に向かって大きく開く設計は当たり前のこと。建物というフレームによってどのように景色を切り取り、その景色の魅力をさらに引き上げられるか。それは建築家の手腕にかかっている。「Viiia Y / N」が立つ崖地は、玄関となる接道面の間口が約6m、海側が約18mという扇形。高低差が接道面と砂浜で約●mほどある。

建築家の岡田哲史さんはこのような敷地の形状であることから、エントランスのある最も眺めの良い2階をLDKとし、1階をバスルームやベッドルームのプライベートエリア。浜辺にダイレクトに行き来できる地下1階をキッチン付きのアウトドアリビングとシーカヤックや釣り竿など用の収納庫とする3層構造の建物とした。ほぼすべての空間から海に向かって視線が抜け、朝目覚めるときから就寝まで多様に変化させる景色を楽しむことができる。

「設計当初は建物が海に正対するプランを提案しました。Yさんと打ち合わせを重ね、模型などにより建物で過ごしているシーンがより明確に想像できるようになっていくと、周辺の環境があまり視界に入らないようにしたほうがよいということに。最終的には1、2階を富士山に向かって正対し、地下1階のみ海に正対するプランに落ち着きました」と岡田さん。

さらに美しい景色の魅力を最大限に引き出す仕掛けが。そのひとつがLDKのサッシ。ヨーロッパのブランドですが、このガラスの面積でここまでフレームが細いものはほとんどないでしょう。レールの凹凸もほ

んどありません。窓周りを極限までシンプルにしたかった。コストは高くなりますが景色が主役ですから。Yさんには設計当初から説明して了承いただきました。

また設計の工夫により開口に構造体が一切設けられていない。そこには岡田さんが本格的に建築設計をする前、コロンビア大学の留学を期に建築史にのめり込み、建築の構造についても徹底的に研究し、今も継続していることが生かされている。もうひとつが軒を深くしたこと。LDKに奥行き2mほどのテラスが設けられている。これにより建物が富士山を含め景色の良い部分だけを切り取ることなった。まさにピクチャーウインドーという言葉にふさわしいこの空間からしか得られない絶景を設計力が実現している。

岡田さんは設計とは別にYさんに海を積極的に楽しむことも提案。釣りの手ほどきをし、シーカヤックもすすめた。海のアクティビティと無縁だったYさんは、スクールに通い始めたそう。都内、軽井沢、そしてここ横須賀。住み手自身がこの土地ならではの楽しみを見つけることで、新たな拠点の魅力がいっそう増していく。

ミニマルを極めた設計に隠された景観を最大限に生かす仕掛け



上 リビングはプランターと造り付けの低い収納で緩やかにゾーニングされている。奥にあるガラスの仕切りの向こうは階段スペース。秋冬は午後になると日差しが奥まで差し込む。下 円形のトップライトがアクセントになったキッチン。建築に似合う端正なフォルムはオーダーキッチンブランド、アムスタイルが手掛けている。



上 遠く水平線に視線が抜けるダイニング。両側を壁に囲まれているので、着席すると開放感とコージーな居心地のよさの両方を味わえる。伸長式の軽やかなテーブルはカッシーナのもの。下 テラスとひと続きになるリビングの天井高は約3m。建築の一部になる造作のソファも含め家具はアルフレックスがコーディネート。



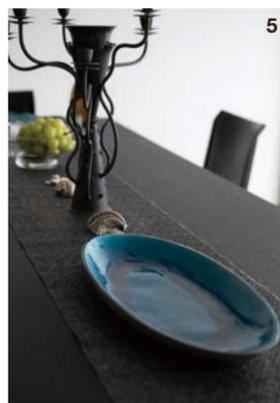
訪れるたびに異なる表情で迎えてくれるエントランスからの眺め

写真左の石の袖壁が、エントランスからダイニングを介し、景色へと視線を導く。青空が床に映り込み、内外がグラデーションでつながる。



上 p.108-109とほぼ同じ時間のシーン。巧みな空間構成によって夕景が異なる表情になる。下 暖炉の炎を眺めながら海を間近に感じながらくつろげるアウトドアリビング。チェア各¥482,000 スツール〈右〉¥131,000 〈左〉¥121,000 テーブル〈大〉¥197,000 〈小〉¥138,000 (すべてB&B Italia Tokyo)





5



DATA

Villa Y/h

- 設計 / 岡田哲史建築設計事務所
岡田哲史+寺田達哉+岡田理佐
- 敷地面積 / 393.67㎡
- 延床面積 / 470.36㎡
- 地下1階 / 142.69㎡
- 1階 / 154.05㎡
- 2階 / 173.62㎡
- 家族構成 / 夫婦+子供2人
- 所在地 / 神奈川県横須賀市
- 用途地域 / 第一種住居地域
- 構造 / 鉄筋コンクリート造
- 構造設計 / 北條建築構造研究所
- 設備設計 / 明野設備研究所
- 工事期間 / 2017年9月~2019年3月
- 施工 / 水澤工務店
- キッチン製作 / アムスタイル
- 造園デザイン / SOLSO
- 照明デザイン / シリウスライティングオフィス

MATERIALS

- 外部仕上げ
 - 屋根 / ウレタン塗膜防水の上 遮熱塗装
 - 外壁 / モルタル金ゴテの上ナノペイントネオ (菊水化学工業)
- 内部仕上げ
 - LDK
 - 床 / 磁器質タイル ライズ14 クレイホワイト 半磨き仕上げ (ADVAN)
 - 壁・天井 / 石膏ボードの上 マチックコート吹付け (フッコー)
 - バスルーム
 - 床 / 石 (浪花白) JB
 - 壁 / 石 (浪花白) 水磨き
 - 天井 / 樹脂モルタルの上塗装

INSTRUMENTS

- 厨房機器 /
 - オープン: Miele
 - IH: Rinnai
 - 食洗機: Miele
 - 水栓金具: hansgrohe
- 衛生機器 /
 - バスタブ: 造作
 - シャワー水栓: hansgrohe



1



2

1 バスルーム。この場所だけしかない非日常を味わうため、海側を全面開口とし、造作のバスタブを大きく、隣接しているパウダールームも含め空間を広くとっている。2 リビングの天井には200インチの大型スクリーンがビルトインされている。天井埋め込み型の4つのスピーカーと床置き型の2台によって、本格的なシアタールームになる。3 ステップの一部が“片持ち”になっている軽やかな階段。移動しながら景色を楽しめ、2階から地階1階まで自然光を導く。4 防波堤から見た外観。富士山に向かって建物の角度を振っているのが分かる。周辺は往來の激しい道路があり、近隣の建物が間近に迫っているが、建物内ではそれを全く感じさせない。5 貝殻のオブジェや青いプレートで、海気分を演出。



3



4



上 日没の瞬間。ドラマチックな光が室内をオレンジ色に染める。昼間とはまったく異なる景色が広がる。下 日没後、オレンジ色の空が徐々に青くなり、海に浮かぶ富士山の輪郭がはっきりとしていく。室内の照明は消してキャンドルの炎のみ。月明かりが水面を照らすまでの、わずか15分ほどの間に変わりゆく景色を楽しむ。

